



豊高だより

平成28年10月31日発行 通算41号

埼玉県立豊岡高等学校

題字：金子 絵美（書道部2年）

巻頭言

校長 鈴木雅士

一 はじめに

先日10月10日体育の日に、本校が立地している地域「豊岡第三区」の市民運動会が行われました。本年は、PTA会長さんの計らいもあり豊岡高校として協力参加することになりました。ほんのささやかな部分ですが、生徒には、バトン部シャイニーズの友情出演と、放送部員による運営進行アナウンスを担当してもらいました。地域住民の方々からは、高校バトン部の本格的な演技を間近に見ること自体初めてのようで、小さい子ども達から大人の方々まで大評判で、大会に華を添えてくれたと喜んでくれました。また、アナウンスをずっと一人で担当した放送部内藤君の見事な進行に、自治会スタッフの方々から大いに感謝されました。こうしたことでも地域の方々

に本校生徒のことで喜んでいただくだけでも大変うれしく思いました。生徒による地域の交流については、豊岡中学



校へ行っての勉強サポートや、豊岡小学校での一日交流会、日高特別支援学校の生徒さんを招いての交流会も例年行ってきました。ここでも毎回、豊高生の意欲的な態度や模範的な振る舞いに、信頼と感謝の声が寄せられます。生徒の活躍を称賛したいと思います。また、いま部活動では、運動部の新人大会が活発に行われており、どの部においても日頃の活動の成果を大いに発揮しています。特に、陸上競技部とバトン部の関東大会出場など、顕著な成績も表れているところから季節も変わり寒くなっても益々熱が入っているのと期待したいと思います。思いま



二 全校集会から

さて、10月12日の全校集会にて、皆さんにお話しした内容について一部をここで書き留めておきたいと思えます。それは将来予測のことです。

昨年あたりから、未来の社会状況について、よく聞くのは、「あと10年から20年で、今ある仕事の

うち40パーセントは消滅または縮小にいたるだろう」という数字です。情報機器の進歩、ロボットや人工知能の発達など、まったく想像できない革新的な技術の登場などがその原因です。実際、技術革新は日進月歩が目覚ましく、新しいものでもすぐにさらに便利なものにとってかわるのを繰り返しています。機械などは、新しい機械に代わるたびに、作っていた会社は消滅または規模の縮小を余儀なくされています。かつて駅には必ず改札員がいて切符を一つ一つ切っていました。今はほとんど機械化されていますので、多くの駅員さんが必要なくなりました。ATMは一般的でなかったのですが、銀行は必ず窓口に行きました。コンビニエンスストアの誕生で昼夜問わず現金が扱えます。お店の受け付けにロボットが登場してくるのも間近かもしれません。また、クルマの技術革新は自動運転に向かっていることを考えても、おそらく将来、運転手という職業も縮小していくことでしょう。いますでに無人運転の路線がありますし、宅配はドローンが行う実験も始まっています。学校の授業もネットによる講義に取って代わられることがあるかもしれません。このような進歩の中で技術革新は予想ができませんので、今後の進路を考えると、なかならない仕事、つぶれない会社に就職すればよいのですが、今それを見極めるのは無理だと思えます。これからは、大きな変化を想定して、一度や二度は転職するこ

各年次より

『みんなで頑張る』

一年次主任 井口正則

とがあるとの覚悟が必要なのかも
しれません。ある日に突然変わっ
てしまうわけはありませんので
徐々に変わっていくのでしょうけ
ども、そのときどきに必要なのは、
変化に柔軟に対応していける力で
しょう。したがっていまやっておくべ
きことは、やはり勉強の基礎基本
と、人としてのマナーの基礎基本
でしょう。授業や学校生活の中で
学ぶ学習は、どんな社会でも絶対
に必要な最低限の基礎知識です。
さらに毎日毎日取り組んでいる部
活動を通しても、体や頭が自然に
鍛えられて変化にしなやかに対応
していく力が備わっていくことでし
よう。挨拶や会話ができなかったり
、進学や就職でのテストの点数
が低かったり、体力がなかったりす
れば、合格や内定は難しいという
ことは、三年次生は痛感している
と思います。勉強やマナーの基礎
基本、体力を確実に身につけた人
材は、どんな社会になっても活躍
できる場がきつとあるはずで、
無人化がすすむ社会においても、
みなさんがその対象になる可能性
は低くなるはずで、ゲームをや
る時間はいっぱいあるし、スマホを
いくらやつても怒られない。でも、欲
望に身を任せていると、10年後は
無人化の対象候補になってしま
います。計画を立てて自分自身を
高めましょう！不要な人材になら
ないように、危機感を持って、学
び、鍛えて成長しましょう。楽な
方に流されてはいけません！どう
か今やっていることを信じて頑張
りましょう。

順調なスタートを切った一年次
でしたが、夏休みを経て、高校生
活への慣れが、どうやらマイナスの
方向に作用しているようです。

9月に実施した「スタサポ」の結
果が返って来ました。それによると
家庭での学習時間は、年次全体で
見て平日の平均が50分から34
分、休日の平均が91分から55分
と、いずれも大きく減少していま
す。また学力も国語と数学のG T
Zがそれぞれ一ランク落ちていま
す。これらは共に入学時から三年
の受験期にかけて、少しずつでも
上向いて行くべきものです。

中間調査が終わりました。結果
は人それぞれでしょうが、大事な
のはこの後です。誤りを正すこと、
学んだことを定着させることをし
なければ、授業を受け、テストに
向けて準備したことは何の意味も
なくあります。

本校は「進学重視型単位制の学
校」です。しかし、その仕組みが志
望進路を実現してくれるわけでは
ありません。個々の生徒が自覚を
持つことが必要なのは勿論です
が、それだけでは仕組みは生きて
きません。生徒が集団として同じ
姿勢、同じ気持ちを持つことが必

要なのです。なぜならば学校とい
う仕組みは、同年代が集団として
同じ目標を持ち、互いに励まし合
い、競い合うことによって個人とし
ても、集団としても高まっていくと
いう仕組みだからです。「自分一
人が頑張ればいい。」という考え
も、「自分一人がサボっても誰の迷
惑にもならない」というのも誤りで
す。

一年次の三分の二近くがもう過
ぎてしまいました。卒業まではあと
「わずか」二年余りです。みんな
で頑張るといふ気持ちを卒業まで
持ち続け、自分とみんなの志望進
路を実現しましょう。

『勉強の量と質を高めよう』

二年次主任 橋本克洋

まもなく11月になります。二年
次生になって7ヶ月が過ぎようと
しています。二年次の半分が終わ
ってしまいました。すなわち、三年
間の高校生活の半分が終わってし
まいました。いよいよ後半戦です。
卒業後の進路実現のための準備は
順調に進んでいるでしょうか？

夏休み中にNHKのBSプレミア
ムで放送された「受験のシンデレラ
（小泉孝太郎さん演じるカリスマ
予備校講師五十嵐が川口春奈さ
ん演じる落ちこぼれ女子高生真

紀と出会い、力を合わせて東大受
験に挑戦する）」というドラマの中
で「勉強ができないのは、やり方が
悪いだけ。生まれつきの頭のレベル
に差はない」という五十嵐の台詞
があります。

では、どこで差は生じるのでし
ょうか？それは、勉強の量と質では
ないでしょうか。まずは量、勉強時
間を確保しましょう。一般的に言
われている受験勉強に必要な時
間は（学年＋1）時間です。そして
質、何をどのように学習するか？
これは個々の学習の到達度等によ
って変わってきます。自分ほどのよ
うな学習が必要なのか分からない
人は、スタディサポートや模擬試
験の結果・分析を是非活用してく
ださい。自分の弱点は何か、どのよ
うな学習が必要なのか、ヒントが
必ず書いてあります。

五十嵐の言葉を信じるなら、い
や信じましょう。受験はけつして怖
くありません。正しい勉強法で時
間をかければ力がつきます、力が
つけば自信がつかます。頑張つて、
自信をつけましょう。

『時間を有効に使おう』

三年次主任 天海雅充

大学、短大、専門学校
の指定校

推薦、公募推薦の希望者の校内選考会議がほぼ終わり、現在は推薦入試、AO入試等に向けた模擬面接が行われています。約80名の生徒が志望動機や高校生活への取り組み等に関する想定される質問に対して、自信を持って自分の言葉で答えられるよう面接練習を受けて本番の試験に備えているところです。

さて、二学期に入り、就職試験やAO入試の合格が報告されています。そして、11月中旬以降に大学、短大の推薦入試の結果が出るので進路が決まる者が増えてくると思います。毎年進路が決まると、残念ながら学校生活への取り組み姿勢が大きく変わってしまう人がいます。進路決定は「ゴール」ではなく「次の進路へのスタート」になります。気を緩めることなく、卒業までの高校生活を充実させるとともに、次の進路への準備期間として時間を有効に使ってほしいと思います。そして、一般受験に向けて必死に勉強に取り組んでいるクラスメイトへの配慮も忘れないでほしいと思います。

いよいよセンター試験まで2ヶ月半になりました。今年是一般入試の受験生が増え、203名の生徒が受験します。先日実施された模試返却会では、入試までのお勧め勉強法として「模試の過去問題や高

校三年間の考查問題を活用した勉強法」「得意科目よりも不得意科目の克服に重点を置いた勉強法」の話がありました。この時期になると不安、焦り、迷いが生じてあれにもこれにも手を出したくなります。しかし、先輩方が進路体験談で「入試直前の数ヶ月間は今まで使用していたものを繰り返し勉強することが有効だ」と話していました。自分に合った勉強法で、入試までの残り少ない時間を有効に使い、合格を手中に収めてほしいと思います。

「冬来りなば春遠からじ」。一年次通信でも書きましたが、辛い時期がしばらく続くかもしれない。この辛い時期を耐え抜けば希望に満ちた未来がすぐ後ろに控えています。皆さんが最後まで張り続けることを期待しています。

教務部より

『新授業三ヶ条と学力向上』

教務主任 橋本 浩

四季を題材にした有名な作品と云えば、清少納言の「枕草子」があります。春はあけぼの、夏は夜、秋は夕暮れ、冬は朝が良いと言っています。千年経った今でも共

感できるのは日本人の中に流れている「もののあわれ」を感じる心だと思います。それとは別に、今では秋と言えば、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋など、秋はチャレンジし易い季節だとも言えます。そこで自宅学習の習慣が身につけていない人も、しっかり勉強したいと思っている人も、この時期から勉強をする習慣を身につけて、自分の進路実現に役立ててもらいたいと思います。

さて、先日の全校集会で「新授業三ヶ条」を提示しましたが、覚えていないでしょうか？「今までの授業三ヶ条」は八年前に授業時間、しっかりと授業に集中して勉強するようにと作成したものでありましたが、ほぼ達成できたと思います。そこで、さらに一歩進めた「新授業三ヶ条」作成しました。予習復習をして、休み時間から授業の準備をして授業に臨もうという趣旨です。スポーツに例えるならば、初めにウォーミングアップをおこない、



最後にクールダウンをする、スポーツ界では常識ですので、勉強でもやつてもらいたいです。これを実行することで学習したことが定着します。さらに、必要なことは手帳に記入し忘れないようにする、社会に出たらスケジュール管理は最低限のマナーです。

あらためて「新授業三ヶ条」を見てみよう。

「五分前行動」

「手帳の活用」

「予習復習」

が三本の柱です。そして、三本の柱に意味を持たせました。「五分前行動」とは、五分前に移動を完了し、教科書類の準備をおこなう、授業の予習をする。「手帳の活用」とは、今年から全員に持って貰った手帳を常に手元に置き、メモを取る習慣を身につけ、勉強の計画やテストの振り返りに活用する。「予習復習」とは、勉強を授業だけで終わりにせず、予習復習をして授業に臨み、解らないことをそのままにしない、さらに理解を深めてもらいたいという思いを込めて、「新授業三ヶ条」を作成しました。

話は少々変わりますが、先日前考査が終わり、帰ってきた結果に一喜一憂している人もいます。ですが、その場だけで喜びや悔しさを忘れずに、もつと長いスパン

で考えてほしいと思います。一年間の結果は一学期、二学期、三学期の合計として3月に出ます。さらに三年間の結果は進路実現という形で出てくるのです。毎日コツコツと努力するのは、忍耐力が必須ですが、「ローマは一日にして成らず」です。強い意志と目標を持ち、「新授業三ヶ条」を実践して、学力向上に取り組んでください。

新 授業三ヶ条

五分前行動

五分前には移動完了
教科書類の準備完了
スマホはしまい授業の予習

手帳の活用

常に手帳を準備する
メモを取る習慣を身につける
計画や振り返りに活用する

予習復習

予習復習をして授業に臨む
解らないことは質問する
繰り返すことで理解を深める

進路指導部より

『進路目標を確認しましょう』

進路指導主事 松村重宏

平成28年度の中学校二年生から大学入試が全面的に変わりま
す。センター試験の廃止や、個別

試験の実施内容の大幅変更、現在のAO・推薦・一般などの入試の区分の廃止など、根本的に入試が変わります。高大接続改革といった流れの中で、入試についても様々な形態が模索されています。

この改革では、入試についても今までのような点数をとれば合格という入試ではなく、アドミツションポリシー（入学者受入に関する方針）やカリキュラムポリシー（教育課程の編成に関する方針）、ディプロマポリシー（卒業認定に関する方針）を大学側はしっかり提示し、入学希望者に周知した上で入試を実施しなければなりません。ここ数年、AO入試が重視されていますが、その背景には各学校がこうした各種方針提示のうえ、学問や将来に明確な目標を持った学生を求めていることの現れと考えるいいと思います。本校でも多くの生徒がAO入試に出願するようになりました。10月末日時点で延べ63の出願があります。

AO入試はプレゼンテーションを中心に面接・面談等を交えながら選考を進めていく入試方法です。筆記試験を課すものもあります。多くの場合基礎的な学力を有していれば問題ありません。進

路ではAOや推薦入試に対応して、面接練習をしたり、志望動機の確認する機会を設けています。そうした中で「一般入試ではなく、なぜAOで受験するのですか？」という質問に対し、少なからぬ生徒から「受験勉強をしたくないから」という答が返ってきました。本来AOは明確な志望動機や総合的な学力が求められる入試方法ですが、なかなかその考え方が受け入れられない実態があることも事実のようです。

進路実現についての最大のポイントは、「自分の目標に向かって最後まで諦めない」ということに集約されます。最後まで諦めないための第一歩は、明確な目標を持つことから始まります。第一希望へのこだわりが進路実現への気持ちを支え、その気持ちが自信へと繋がるわけです。また、その進路実現の方法についてはAO入試の他に推薦入試、一般入試など様々な方法があります。自らを取り巻く多くの条件を考えて、進路実現のために最も適した進路実現の方法を選択することがこれからは大切になってきます。前述したAO入試についても進路実現のための有効なひとつの方法です。しかし、AO

入試は「勉強をしなくても良い」というような安易な入試ではありません。志望動機を整理したり、小論文の対策をしたり、多くの時間と手間を必要とすることも事実です。

前述したように、進路で大切なことは、まず目標を持つことから始まります。今の自分でも行けそうな進路先を探すのではなくて、行きたい進路を切り拓く気持ちが必要です。行けそうだからとか、勉強をしなくていいからという考え方で進路を考えることは望ましいことではありません。大学入試改革の要となるかもしれないAO入試は、これからはさらに重要視されるでしょう。AO入試の本当の意味を理解することは進路についてさらに深く理解することに繋がります。

一二期のこの時期は、勉強でスランプに陥って悩んだり、部活が充実してきたり、進路の目標を見失いがちです。三年次生は具体的な進路に向け、一・二年次生は長期的な展望に立って「明確な」進路目標を再度確認してください。そしてその実現に向けて諦めず、最後まで頑張ってください。